

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時： 2022年 5月 27日 19時 00分 ～ 20時 00分
- 2 会場： Web開催 点数： 専門 — 20点
- 3 主題： トラブル事例から学ぼう。当院で発生したトラブル事例と対策①、②
- 4 講師： 小針 奈穂美 (埼玉医科大学病院)
柿沼 智史 (川口市立医療センター)
- 5 協賛： なし
- 6 参加人数： 会員 78名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員： 藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊裕樹
小針奈穂美 中川禎己 松本実華 織田喜子
- 8 研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、「トラブル事例から学ぼう。当院で発生したトラブル事例と対策」というテーマで、①の事例では小針氏、②の事例では柿沼氏を講師にWeb開催した。

事例①では、採尿時でのトラブル事例から運用に関わる事例まで、尿検査一連のプロセスにおける事例が主な内容であった。質の高い尿検査の実施には、臨床検査技師としての知識は勿論だが、患者自身が採尿する尿検査などは、正しい採尿方法や適切な尿での検査の必要性を理解してもらう事が重要である。また、ラベルの見落としなどの運用に関する事例では、再発しないための手順を決め、手順書に沿った手順を徹底することの重要性を再認識することができた。

事例②では、2例の尿検査に関するトラブル事例と、3例の髄液検査に関する事例であった。尿検査では、試験紙法における偽反応と、尿沈査中の糞便由来成分が定量検査に影響した事例を、実際の検査データに基づいての説明であった。試験紙法の偽反応の中でも、尿の色調が試験紙の呈色に直接影響を及ぼす偽反応が最多い。しかし、分析装置での判定には限界があるため、目視法にて確認することが重要である。また、検査結果が、思いもよらない影響を受けている場合もあるため、検体の状態は常に同一な状態ではないことを念頭に置かなければならない。髄液検査の事例では、多くの施設が夜間当直帯で実施している検査項目であるため、トラブル事例の多くが夜間帯に起きることが多い。そのため、手順の周知徹底

と、定期的なトレーニングの実施が必要である。

今回のトラブル事例は、多くの施設で遭遇した経験がある内容であったと思う。今後の日常業務での再発防止に繋がる、大変参考となる内容であった。

提出日 2022年 6月 11日

文責：室谷明子